

第十回

琉球・中国交渉史に
関するシンポジウム

論文集

第十届中国・琉球历史关系研讨会

2012.10.29 大连晨报



シンポジウム会場・北京金台飯店前にて



中国第一歴史檔案館前にて



謝 必震 氏



上里 賢一 氏



張 小銳 氏



赤嶺 守 氏

第十回シンポジウムの開催にあたって

沖縄県教育委員会教育長 大城 浩

尊敬する中国国家檔案局副局长・中央檔案館副館長 楊継波先生

尊敬する中国第一歴史檔案館館長 胡旺林先生

尊敬するご来場の皆様

本日の「第十回琉球・中国交渉史に関するシンポジウム」開催にあたり、沖縄県教育委員会を代表いたしまして、本シンポジウムの開催を心よりお祝い申し上げますとともに、シンポジウムの開催に尽力し、私たち一行を迎えてくださった中国国家檔案局、中国第一歴史檔案館の皆様にご心より感謝いたします。

沖縄県と中国とは、一三七二年に琉球国中山王が明に進貢を始めてから、一八七九年の廃藩置県にいたるまで、五〇〇年余にわたる長い友好交流の歴史があります。琉球は中国との冊封・進貢関係をと

して、中国から多くのことを学び、また大きな影響を受けながら独自の文化を形成してまいりました。この間に琉球と中国との間で交わされた往復文書を編纂した『歴代宝案』は、沖縄県の対外関係史を解明する上で、第一級の同時代史料であり、また当時の東アジア世界の動向をも知りうる貴重な資料であります。残念なことに『歴代宝案』の原本は失われてしまいましたが、沖縄県は一九八九年より、残った一部の影印本、写本等をもとに、『歴代宝案』の編集出版事業を開始しました。この編集出版事業は、中国第一歴史檔案館の多大なる協力を得て、さらに大きく進展し現在も継続しております。

さて、沖縄県教育委員会と中国第一歴史檔案館との学術交流は、一九九一年三月十八日に覚書を交わして以降、四回の覚書、協議書の締結をへて、今年、二二年目を迎えました。この二一年間に私たちは琉球関係檔案史料の発掘、研究者の交流、シンポジウムの開催、史料集の編集出版をとおして、中琉歴史関係の研究を促進させ、双方の理解と友好を深め、実りある成果をおさめてまいりました。沖縄県教育委員会が編集刊行している『歴代宝案』校訂本・訳注本、中国第一歴史檔案館が編集刊行した『清代中琉関係檔案選編』等七冊及び『清代琉球国王表奏文書選録』、そして二〇〇五年から新たに編集出版している『中琉歴史関係檔案』の史料集は、琉球・日本・中国のみならず、東アジア交流史研究の発展に大きく貢献し、歴史的理解を深めているものと信じております。

さて、本日のシンポジウムでは、中国側からは中国第一歴史檔案館の張小銳女史と王徵氏、福建師範大学教授の謝必震氏と謝忱女史、沖縄側からは琉球大学名誉教授の上里賢一氏、琉球大学教授の赤嶺守

氏の発表があります。これまでの交流事業の成果、現在行われている史料集の編集出版の状況を踏まえ、今後の学术交流の展望、中琉歴史関係史の発展を示唆する第十回シンポジウムにふさわしい有意義な討論がなされることを期待しております。

最後になりましたが、今回のシンポジウムをご準備された中国第一歴史檔案館関係者の方々に感謝申し上げますとともに、シンポジウムの成功とご来席の皆様のご健勝を祈念いたしまして、あいさついたします。

平成二十四年（二〇二二）十月二十九日